

CAL研究会、鳥取で研究会

感動与える「人間力」を

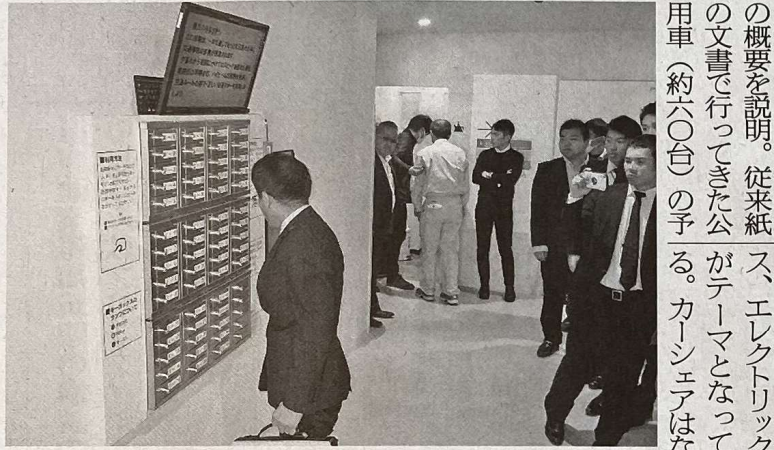
鳥取市カーシェアの概要説明

【鳥取】CAL研究会は一四、一五の両日、大阪市内で研究会を開催した。テーマは「いかなる状況の中でも、手を携えて勝ち残っていくこと」。同研究会が開発したSSのシヨップアプリ「CALマイピット」の案内などをを行った。

同研究会の生川正洋氏が基調講演。一昨年一〇月、EUの欧州議会が地球温暖化対策として自動車のCO₂排出量を二〇四〇年までに二〇二二年目標の四〇％に削減する新たな環境規制案を採択した

ことを受け「わが国の社会の反応は鈍いが、地球温暖化は深刻な問題。ガソリンの使用量がどんどん落ち込むことを覚悟して生き残りの道を考えておくことが大切」と指摘。CAL研究会としては、商品の利益性、商品相互の関連性、将来への発展性から考えTCS（トータル・カーライフ・サービス）がガソリンに代わる次世代のSSの主役の座につくと位置づけていると述べた。

その上で「車を売るのに必要なのは人間



鳥取市庁舎内のカーシェア運用現場を見学

力。人間力とは人と人の関係性を口滑に処理できる能力のことだ。かつてはお客さまを満足させれば売れた。しかし今はもっと深くお客さまの心をつかみ感動を与えないと売れない。他のSSがスピードと効率性を売り物とするならば、われわれは感心され、感謝され、感動を与えるSS作りを目指して徹底的な差別化を図ろう」と呼びかけた。

智頭石油の米井哲郎社長は、このほど同社が受注した鳥取市役所のカーシェアシステム

の概要を説明。従来紙の文書で行ってきた公用車（約六〇台）の予約。カーシェアはなかなか商売にはなりにくいが、車に関する商材が軒並みピークアウトしている中、カーシェアだけは伸びている。社会の流れになっ

約と鍵の管理をシステムで自動化し、昨年一月からキーボックス型で運用を開始した。米井氏は「自動車業界では『CASE』界では『CASE』（コネクテッド、オート、シェア&サービス、エレクトリック）がテーマとなっ

「CALマイピット」はSSと顧客をつなぐアプリで時代に即応した販売促進・集客ツール。同研究会が開発したSS業務システム「CALPIT」と連携し顧客一人一人の取引情報に応じたメッセージの送信など細かいコミュニケーションが可能。

来店ポイントを活用した固定化や、ネット予約機能を活用した顧客満足度向上、SSのオペレーション改善、広告コスト削減に「と述べた。

有田石油の藪野睦士と、目見田商事の目見田純也社長は「令和二年に向けての挑戦」の演題でそれぞれ講演した。

るので取り込むことは大切だと思う。企業価値を上げるのにも役に立つレンタカーの宣伝にもなる」と強調。

「CALマイピット」はSSと顧客をつなぐアプリで時代に即応した販売促進・集客ツール。同研究会が開発したSS業務システム「CALPIT」と連携し顧客一人一人の取引情報に応じたメッセージの送信など細かいコミュニケーションが可能。

来店ポイントを活用した固定化や、ネット予約機能を活用した顧客満足度向上、SSのオペレーション改善、広告コスト削減に「と述べた。

有田石油の藪野睦士と、目見田商事の目見田純也社長は「令和二年に向けての挑戦」の演題でそれぞれ講演した。